

平成 29 年度 微生物学教科担当教員会議 報告（日本薬学会第 138 年会、金沢）

日時：平成 30 年 3 月 26 日（月）11:50～12:50

場所：ANA クラウンプラザホテル金沢 3 階瑞雲 2（G 会場）

出席者：全国大学薬学部において微生物学教育に携わる教員 63 名

#### 配付資料

資料 1 ……平成 29 年度（第 5 回）薬学教科担当教員中央会議 議事録

資料 2-1 ……第 30 回微生物シンポジウム パンフレット

資料 2-2 ……（参考資料）薬学会部会関連学会開催予定

資料 3-1 ……コアカリに関するアンケート

資料 3-2 ……（参考資料）微生物分野のコアカリ C8

資料 4-1 ……薬学教育微生物学教科担当教員会議アンケート集計結果（開催について）

資料 4-2 ……薬学教育微生物学教科担当教員会議アンケート集計結果（日本細菌学会）

資料 5 ……代表的な 8 疾患の国家試験での取扱

参考資料 1 ……平成 28 年度 微生物学教科担当教員会議出席者リスト

参考資料 2 ……平成 28 年度 微生物学教科担当教員会議決定内容（平成 27 年度議事録）

参考資料 3 ……抗ウイルス感染症のフロンティア シンポジウム開催予告

#### 会議内容

1. 平成 30 年度微生物学教科担当教員会議事務局について 東京理科大学 早川洋一 先生
  - 平成 30 年度は日本薬学会第 139 年会を開催する東京理科大学の早川洋一先生がご担当される旨の報告があった。日本薬学会第 139 年会は 2019 年 3 月 20 日（水）～3 月 23 日（土）の日程で幕張メッセにおいて開催される。
2. 平成 29 年度（第 5 回）教科担当教員中央会議について 広島大学 黒田照夫 先生（資料 1）各教科担当教員会議の活動報告があった。
  - ・教科担当教員会議の複数回の開催が求められている（議題 8 と関連）。
  - ・コアカリキュラム改定に向けた教員会議のあり方について議論があり、常に討論しておき、要求があれば案を提出できる状態にしておいて欲しいとの要望が出された。
  - ・薬科学担当教員会議の設置について議論があり、当面は 4 年制学生の教育・育成に関してコアカリキュラム作成を目指す会議ではなく、情報交換をする場とする方向である旨の議論がなされた。
  - ・実務家教員の研鑽について議論があった。
3. 微生物シンポジウムについて
  - （1）大阪薬科大学 辻坊裕 先生
    - ・教員会議参加者には是非参加して、盛り上げていただきたい。
    - ・特に学生の参加を促し、シンポジウムを活性化していただきたい。
  - （2）平成 29 年度 第 29 回微生物シンポジウム報告  
広島国際大学 山中浩泰 先生  
「多様なフィールドで展開されている微生物研究とその可能性」というタイトルで、2017 年 8 月 29 日と 30 日の二日間にわたって、広島国際大学 呉キャンパスにおいて開催され、幅広い分

野から約 70 名の参加登録と発表があった。

(3) 平成 30 年度 第 30 回微生物シンポジウム案内

城西国際大学 平田隆弘 先生 (資料 2)

「温故知新: 若い世代の未来に向けて これまでの歴史を探る～Visiting History, Learn New Field of Microbiology」というタイトルで、2018 年 8 月 27 日と 28 日に、城西国際大学 東京紀尾井町キャンパスで実施される。

- ・これまで薬学教育と研究に貢献されてきた 2 名の先生に特別講演をお願いした。
- ・若手研究者によるミニシンポジウムが企画されている。
- ・学生の参加を促すため、ポスター発表を検討している。

(4) 平成 31 年度 第 31 回微生物シンポジウムについての概要

京都薬科大学 小田真隆 先生 (担当予定)

・2019 年 8 月 29 日と 30 日に、京都薬科大学 愛学館で開催予定である。(議事録作成後、開催日を 8 月 28 日と 29 日に変更予定との連絡あり)。 ・学生の参加を促すため、優秀発表賞やポスター発表を検討している。

#### 4. 教育に関して

同志社女子大学 川崎清史 先生 (資料 3)

- ・コアカリについて、教育内容は現状の SBO の内容の是非等について、配布資料に記載されているような項目で各担当教員にアンケートを送付予定である。
- ・アンケートの内容についての意見はメールでも受け付け、柔軟に対応する。

#### 5. 研究に関して

東北医科薬科大学 久下周佐 先生

- ・薬学会年会で開かれるシンポジウムの「抗ウイルス感染症のフロンティア」について紹介があった。
- ・研究に関して教員のみなさんから希望があれば対応する。

#### 6. 共用試験に関して

東京薬科大学 野口雅久 先生

CBT の問題作成について、微生物学分野のコアカリに記載されている SBO を守るようにとの依頼があった (例えば、抗菌薬に関しては微生物分野の SBO の項目ではないため、そのような問題は廃問になる)。

#### 7. 次期微生物教科担当教員会議世話人について

広島大学 黒田照夫 先生

- ・現世話人の 2 年間の任期を終了した。
- ・黒田先生、塩田先生、供田先生の再任が了承された。
- ・本会議に欠席の青木先生には意向を伺った上で、対応をメール会議で相談する予定である。

#### 8. アンケート結果についての報告

広島大学 黒田照夫 先生 (資料 4)

(1) 薬学教育微生物学教科担当教員会議アンケート集計結果の各設問について以下のような報告があった。

- ・教員会議の複数回の開催は賛否が分かれたが、賛同者は2回目の開催を微生物シンポジウムにあわせることに賛成であった。
- ・複数回開催の反対については、多岐にわたる意見の紹介があった。
- ・教員会議で取り上げて欲しい内容の問いに関して結果の説明があり、要望等は今後の教員会議での教育講演テーマに反映することも考えているが、現状では6年制を基準に議論を進めていく予定である。
- ・アンケートへ回答したほとんどの先生が微生物学の研究と講義に関して担当している。日本薬（2）河村好章先生（愛知学院大）が実施された、薬学会年会および日本細菌学会総会の出席に関するアンケート集計結果について、代理で説明があった。
- ・細菌学会の参加者が減少しており、特に薬学系からの細菌学会参加者の減少が激しいため、アンケートをとった。
- ・本年会と細菌学会で日程的な重複がない場合、参加者が増えることが期待されるので、細菌学会の幹事会でアンケート結果を報告し議論する。
- ・河村先生から「細菌学会にも参加してください」とのご希望があった。

## 9. その他

### (1) 国試の微生物（関連）問題について

広島大学 黒田照夫 先生/就実大学 塩田澄子 先生（資料5）

塩田先生から国家試験における微生物関連の問題傾向について、薬学ゼミナールでまとめられた資料をもとに説明があった。

- ・平成25年のモデルコアカリ改訂の時点で「F 薬学臨床 代表的な8疾患」が挙げられたが、8疾患の一つである感染症関連の国試問題の増加が著しい。
- ・実務実習において実習先から薬物療法に関する教育が求められてきており、薬物治療に関し  
て実務実習で取り扱う疾患に、教育上の不公平が生じないように担保する必要がある。
- ・抗菌薬の処方に関する薬剤師からの提案についても出題されている。
- ・国試への対応として、微生物科目の授業のなかで、感染症の病態・薬物治療を取り上げることを考慮する必要があるのではないか。

### (2) 野口雅久 先生（東京薬科大学）から、以下のようなコメントがあった。

- ・東京都の認定薬剤師世話人の観点から、抗菌薬や感染制御に関する講習会が人気であり、現  
場の方で求められている。
- ・化学療法学会は薬剤師の参加者が増えており、様々な講演が行われている。医師に対しても  
薬剤師から意見を述べることができる風潮となっている。
- ・学会等の情報も集めて、薬学における抗菌薬教育に関する考え方を変えていく必要がある。

(3) 本年度の年会で取り扱われているウイルス関連のシンポジウム、「抗ウイルス感染症のフロンティア」と、「次世代創薬に向けた感染症とがんの横断的基礎研究の進展」について、伊従光洋と山下克美（金沢大）から紹介があった。

以上